

花のチカラ 緑のココロ

2014年 夏号



残暑お見舞い申し上げます



「第13回園芸福祉シンポジウム in とうきょう」は、6月28日（土）に、まだ木の香が残る新築の東京農大横井講堂で開催されました。基調講演は、都内練馬区の1.4haの畑で、専業農家をされている白石好孝さんから、多様な取り組みの中から園芸福祉色の強い「農業体験農園」と「精神障がい者の社会適応訓練」のお話しを中心に伺いました。白石さんの巧妙な話術だけでなく、根底に流れる地域との共生の考え方に共感し、『白石農園に行きたい！』と思われた方が多かったと後で聞きました。（翌日に見学会を企画しなくて済みません）

第二部は、『植物と人間の絆』の出版記念の座談会です。登壇者は、生け花安達流二代安達瞳子さんと東京農大造園の服部教授（理事）、進行役の吉長理事長の3名です。安達さんからは、生け花の心についてのお話しだけでなく、生け花の実演というサプライズもありました。服部教授のお話しは、米国ポートランドでの植物によるコミュニティづくりなど。また会場から各地の絆活動の紹介・意見をいただき、理事長の本作り苦労話もあり、シナリオなき座談会は無事修了いたしました。

シンポジウム修了後は、農大校内の食堂にて交流懇親会です。園芸福祉首都圏ネットの皆様の企画により、ゲームあり、各地域の一言スピーチなど、ただの飲み会とならない工夫で楽しい時間を過ごしました。アッという間に、はるばる沖縄から見えた沖縄園芸福祉協会の赤嶺会長による中締めとなりました。ゲームの景品で各地の名・迷産品の確保にご協力いただいた方々に感謝申し上げます。

また、シンポジウムの前の午前中には、同じ会場でNPOとしての通常総会を開催しました。赤字であった平成25年度の反省に立って、一丸となり26年度に取り組む役員の決意に基づいた理事会案が承認されたことをご報告申し上げます。

（文責：粕谷芳則）



ネットワーク組織（地域協力団体）のご紹介

年間活動アンケートのご提出ありがとうございました。アンケートの中で、ご自身の地域での活動に関するお問い合わせが多く寄せられました。協会では、全国の活動状況の把握に努めておりますが、すべての地域で活動場所や内容を把握するには至っておりません。地域の活動を支えていくために、全国には都道府県単位で園芸福祉活動の実践や普及、ネットワークづくりを進めている地域協力団体がありますので、詳しい地域活動につきましてはお近くの団体へお気軽にお問い合わせください。ホームページでは地域協力団体を詳しくご紹介しています。

地域	団体名	連絡先	地域	団体名	連絡先
北海道	北の園芸福祉研究会	090-9439-1523 (三田村)	滋賀県	NPO法人滋賀の園芸福祉研究会	077-589-2210
福島県	うつくしま園芸福祉の会 担当: 関野	024-593-6337	京都府	NPO法人京の園芸福祉研究会	075-582-0108
栃木県	園芸福祉とちぎ	0285-53-6825	大阪府	NPO法人たかつき	072-689-9112
埼玉県・東京都 千葉県・神奈川県	園芸福祉首都圏ネット	090-6925-6163 (五十嵐)	兵庫県	NPO法人ひょうご宝塚園芸福祉協会	0797-86-0619
新潟県	園芸福祉にいがた	0258-86-8121	和歌山県	園芸福祉グリーン倶楽部	090-3489-1130 (井上)
石川県	いしかわ園芸福祉協議会 担当: 瀬川	076-225-1478 (内線 4271)	岡山県	NPO法人岡山県園芸福祉普及協会	090-7543-8168 (西村)
長野県	長野県園芸福祉ネットワーク	0265-98-6707	広島県・島根県	ひろしまね園芸福祉協会	0823-33-7173
岐阜県	NPO法人岐阜県園芸福祉協会	0574-72-2222	福岡県	園芸福祉ふくおかネット	090-8626-1586 (黒瀬)
静岡県	NPO法人しずおかユニバーサル 園芸ネットワーク	053-425-8686	長崎県	NPO法人長崎さんさん 21	095-857-3251
愛知県	NPO法人花と緑と健康のまち づくりフォーラム	052-613-1187	沖縄県	沖縄園芸福祉協会	098-895-8820
三重県	三重県園芸福祉ネットワーク	0595-65-8787			

園芸福祉士資格審査のご案内

平成26年度園芸福祉士資格審査についてご案内いたします。以下の①～③の審査条件をすべて満たした方は、園芸福祉士資格審査の申込をすることができます。

審査条件

- ①初級園芸福祉士の資格更新を1回以上行い、審査申込時点で資格登録者であること。
- ②園芸福祉活動を2年以上行い、年間活動アンケートを2回以上提出していること。
ただし、年間活動アンケートは園芸福祉活動の実施報告であること。
- ③当協会または地域協力団体の主催或いは共催のシンポジウム、事例発表会、勉強会、イベント等に1回以上参加していること。審査申込時に自己申告していただきますが、居住地域に地域協力団体がないなど、参加が難しい方については別途ご対応いたします。

審査申込期間 平成26年8月11日～8月29日
審査料 3,000 円

平成26年度新たに①②の条件を満たした方には審査申込書をお送りいたします。
また、平成25年度以前に①②の条件を満たし今年度審査を希望される方、審査条件を満たしているかご確認されたい方は8月20日(水)までに事務局までお問い合わせください。



「園芸福祉すぐに役立つプログラム集・クラフト編」のご紹介

この度、当協会の地域協力団体である園芸福祉首都圏ネットさんが「園芸福祉すぐに役立つプログラム集・クラフト編」を作成されました。園芸福祉首都圏ネットのメンバーがこれまで実践してきた様々な活動の中から、19の選りすぐりの園芸福祉プログラムが紹介されています。是非とも、会員の皆様の活動に参考にしていただければと思います。内容や購入方法につきましては、園芸福祉首都圏ネットまでお問い合わせください。



連絡先

園芸福祉首都圏ネット

〒162-0063 東京都新宿区市谷薬王寺町 24 (株)花の企画社内

✉ syutoken@engeifukusi.com ☎ 090-6925-6163 (五十嵐)



頒布価格 500 円+送料



本年度は、新たに約 200 名の方々が
初級園芸福祉士に登録されました。
自己紹介の中から一部をご紹介します。

植物の生産現場で約 10 年、関東、北海道でしてきました。現在は、園芸療法活動を取り入れているデイサービスの施設に併設している庭の管理をしています。庭を通して村の人、施設利用者、さまざまな人と関われたらと思っています。その方法や手段の数を増やせたらと思い、勉強してきました。
(北海道)

高齢者施設で働いていた際、花や野菜の栽培に興味をもたれる高齢者が多く、高齢者同士、高齢者と職員のコミュニケーションのツールとしても有効であることを確信したので、園芸福祉活動に興味を持ち、協会の養成講座を受講させて頂きました。現在、高齢者の入居・通所施設でボランティアとして不定期に農作業の手伝いをさせて頂いています。回数を重ねていくうち、高齢者の方々や職員さんの信頼を得、定期的に続けていきたいと考えています。
(埼玉県)

私は樹木や野に咲く花を育てるのが大好きです。環境教育にも興味があり、最近ボランティアをはじめしています。縁があって仕事として公園・緑地関係の仕事をしています。仕事を通して園芸福祉士として活かしていければ良いなと思っています。身近な自然（植物）とのふれあいを通して、いやしやワクワクドキドキするような楽しさを共に感じ、みんなが幸せになれるような手助けをしていきたいなと思っています。
(東京都)

介護に関する仕事をしています。効能や癒しを求めハーブに興味を持って数年、暮らしに役立たせるクラフトや料理などを勉強中です。自分の拙い知識が生かせる様、活動に参加したいと思います。
(愛知県)

特別養護老人ホームに勤務しています。もともと、ガーデニング等に興味があり、挿し木、挿し芽等、また山の植物を増やすことを楽しんでいます。職場でも、利用者の方と一緒に野菜作り、種まきから育て食する楽しみを味わっています。今後も色々な場所で、土や植物を通じて、自分自身学びを広げていきたいと考えています。
(岡山県)

高齢女性の皆さんと地域にラベンダーを植えて、手作り品を作って販売を始めて 20 年になります。はじめ 2,000 本ほどのラベンダーが今では 3,000 株ほどに増やすことができました。人口 500 人ほどの小さな地域ですが、どこに行ってもラベンダーを見ることが出来る癒しの地域になり、人口減少に歯止めをかけることができればと思っています。
(広島県)

老人保健施設で利用者との関わりの一つとして園芸やクラフトをツールとして使っています。イベントなどで園芸の持つ楽しさや効用をみなさんに知ってもらえるように活動し、今後も続けていきたいと考えています。
(島根県)

この夏のおすすめの二冊



「植物と人間の絆」チャールズ・A・ルイス著/吉長成恭監訳 進藤丈典・篠崎容子訳 創森社 1,800 円+税

この本は、1996 年アメリカで刊行された「Green Nature/Human Nature」(チャールズ・A・ルイス著)を翻訳したものです。原著は米国や日本の園芸療法や園芸福祉活動のバイブルのような存在として、心の支えになっている名著です。花や緑を好きになるのはもちろん、自然や植物を理解するのに遅すぎるということはありません。不断に復興や平和を築いていくためには、自然や植物は不可欠なものであり、人間との関係性、持続性、循環性をより確かなものにしていく必要があります。本書でその手がかり、ヒントをつかんでいただければ幸いです。(監訳にあたってより) 翻訳は 2 名の園芸福祉士が担当しました。
※協会事務局でも取り扱っています。



訳者 3 人組

「ルピナスさん～小さなおばあさんのお話～」バーバラ・クーニー著/掛川恭子訳 ほるぷ出版 1,300 円+税

『ルピナスさんは、海をみおろすおかのうえにある、小さな家にすんでいます。いえのまわりには、あおや、むらさきや、ピンクの花が、さきみだれています。ルピナスさんは小さなおばあさんですが、むかしからおばあさんだったわけではありません。世界中を旅行しましたし「世の中を美しくする」ためにステキなことを思いつきました。』この絵本は一人の女性の人生の輝きを、ルピナスの花に託して、静かに語りかけてくれています。この本は、静岡県掛川市在住の園芸福祉士の方からご推薦いただきました。





コラム 市民農園万国記 ～東欧の市民農園：ポーランド～

今年は、市民農園国際会議の年で、8月末にオランダ ユトレヒト市に出かけてきます。その報告は、後号に譲るとして、今回は6年前の前々回会議の開催地ポーランドを紹介します。



ポーランドは、全国に約97万区画を有するドイツに次ぐ市民農園大国です。チェコやスロバキアを含めた旧東欧北部諸国は、市民農園が盛んです。それは、生鮮食品流通の不備や土地の国・公有化（私有が不可）、国民の権利行使など、社会主義ならではの理由があったと考えます。訪れたクラクフ市の農園の説明でも、希望すれば約300㎡の市民農園を借りる権利があること、農園の地代は無料であること、（利用者協会費は必要：2万円程度／年）自由化後、農園を返す人と農園で野菜づくりをしない人が増えたとのことでした。

ポーランドは、旧東欧のみならず、EUと比べても好調に経済成長を続けており、市民農園の役割が生活のために必要な自給手段から、余暇や福祉、環境へと移りつつあるようです。皆様も、治安が良く、世界遺産も多く、食事も日本人の味覚に合う（個人的意見）ポーランドにお出かけ下さい。しかし、強いお酒のズブロッカの飲み過ぎにはご用心！（粕谷）



求む！各地・各人の活動情報

地域組織や個人の園芸福祉活動の情報を事務局宛にお送りください。また、下記 mail アドレスにご連絡ください。会報などはPDFファイルを添付してメールしていただければ皆様に広報させていただきます。

HP アドレス：<http://www.engeifukusi.com/>

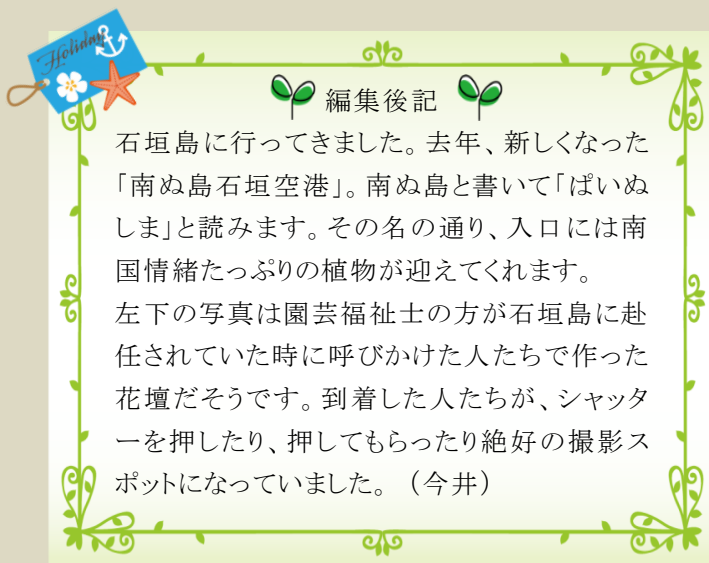
mail アドレス：kyoukai@engeifukusi.com

正会員を募集しています

日本園芸福祉普及協会は、NPO法人です。NPO法人は、正会員で成り立つ組織です。協会の正会員の内70%以上の方は、初級園芸福祉士の資格を取られた後に正会員になられた方達です。多くの方に正会員になっていただき、協会運営にお力添えをお願いいたします。

おすすめの一冊

ただ今、会報で紹介させていただくお勧めの本を募集しています。みなさんのおすすめの一冊をぜひお知らせください。ただし、園芸福祉に関連する、あるいは関連すると思われる本に限らせていただきます。お待ちしております！！



編集後記

石垣島に行ってきました。去年、新しくなった「南ぬ島石垣空港」。南ぬ島と書いて「ばいぬしま」と読みます。その名の通り、入口には南国情緒たっぷりの植物が迎えてくれます。左下の写真は園芸福祉士の方が石垣島に赴任されていた時に呼びかけた人たちが作った花壇だそうです。到着した人たちが、シャッターを押したり、押しってもらったり絶好の撮影スポットになっていました。（今井）

NPO法人日本園芸福祉普及協会

〒162-0063 東京都新宿区市谷薬王寺町 58

TEL: 03-3266-0666 FAX: 03-3266-0667